

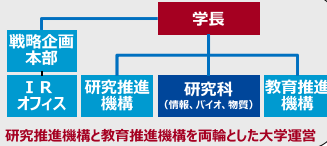
目的 「研究力強化の方針」に基づいた研究システムの改革

世界トップレベルの【クオリティ】【先端性】【ビジビリティ】の実現

これまでの実績・取組状況
〔平成25年～29年〕
今後5年間の将来構想

事業推進体制の整備/強化

- 戦略企画本部、研究推進機構、教育推進機構を設置し、教育研究マネジメント体制を強化
- 戦略企画本部内にIRオフィスを設置、オフィス長にIR担当副学長を配置



「研究力強化の方針」の具体化/実践

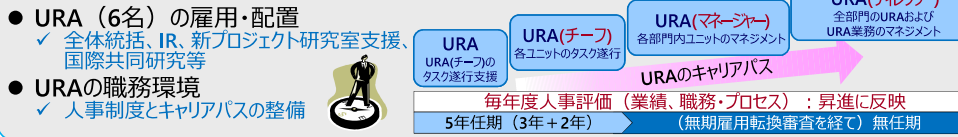
- ◆ 研究活性の維持と研究の質の一層の底上げ
- ◆ 若手研究者の積極的な登用と新たな研究領域の開拓
- ◆ 教員個人と組織としての国際的ネットワークの構築
- ◆ URAによるIR機能と研究支援機能の一層の強化

制度改革の推進

- 人事労務制度改革：
 - ✓ URAの人事制度とキャリアパスの整備
 - ✓ 教員の年俸制、クロス・アポイントメント制の導入
- 人材確保のための制度改革：
 - ✓ PI准教授ポストの設置
 - ✓ 国際公募の実施
 - ✓ 女性研究者採用時のインセンティブ

【Aメニュー】研究マネジメント人材群の確保・活用

- URA (6名) の雇用・配置
 - ✓ 全体統括、IR、新プロジェクト研究室支援、国際共同研究等
- URAの職務環境
 - ✓ 人事制度とキャリアパスの整備



【Bメニュー】研究環境の改革

新研究領域創出チャレンジプログラム

- ◆ 若手研究者発掘・育成プロジェクト
 - 先端研究分野の若手研究者 4名をテニオトラック特任准教授として採用
- ◆ 戦略的研究チーム強化プロジェクト
 - 6研究室へ研究スタッフ各1名を重点配置(第1期3年間)

サステナブル研究向上プログラム

- ◆ 国際的頭脳循環プロジェクト
 - 若手研究者13名、シニア教員10名を海外有力研究機関へ派遣
- ◆ 先端研究手法導入支援プロジェクト
 - 若手研究者、博士研究員、技術職員等を講習会へ派遣(51件、延べ122名)

戦略的国際共同研究ネットワーク形成プログラム

- ◆ 海外研究拠点整備プロジェクト
 - 海外研究機関に本学研究拠点を2拠点設置(仏・CEMES、米・UC Davis)
 - ◆ 国際共同研究室整備プロジェクト
 - 本学内に国際共同研究室を3室設置(米・CMU、仏・Ecole Polytechnique、加・UBC)
- 

1 研究科体制 (平成30年度に移行) のもと、研究の更なる深化と新たな研究領域の開拓に取り組む

- 教員の戦略的確保
 - ✓ 全学的な視点で教員人事に関する方針を検討
 - ✓ 優秀な研究者の早期発掘と獲得のためのリクルーティング体制を強化
- 教員個人と組織としての国際的ネットワークの構築
 - ✓ 教員の海外派遣強化、採用時の海外教育研究歴重視
 - ✓ 海外研究拠点と国際共同研究室の戦略的連携強化及び拠点地域の拡大
- IR機能の充実とURAを活用した異分野連携による研究の高度化
 - ✓ 各種目標の達成に向けたIRによる連携の仕組み作りとガバナンスの強化
 - ✓ URAを活用した異分野連携による研究の高度化と新たな研究領域の開拓

達成指標

研究成果発信の質的・量的強化	科研費・受託研究費獲得	論文数
研究者の多様化・グローバル化	Top 10%論文割合	国際共著論文割合
	若手教員比率	海外経験教員割合
	女性・外国人教員割合	外国人留学生割合

中間評価結果

評点区分: A

全体に対する所見

意欲的に取組を進め、顕著な成果を上げているなど、順調に進捗しており、当初構想の十分な達成が見込まれる。規模の拡大を行わないとしても、将来の発展に向けた方策については、今後も継続的に検討いただきたい。

当初構想・計画の進捗状況に対する所見

人事労務制度改革により、URAのキャリアパスを含めた人事制度及び評価システムを整備したことは評価できる。教員の高い流動性を生かした教員の戦略的確保の継続についても期待する。

今後5年間の将来構想に対する所見

URAの人事制度の整備などが順調に進捗している一方で、主にコーディネーターとしての役割を期待されていることに対して、現状では大きなギャップがあると思われる。今後の推移に沿った検討が必要と考えられる。